

アンケート調査について

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ

2025/8/29

1. アンケート調査の目的

- 沖縄のこどもの幸福度等の主観的要素と現状・課題に関する状況を把握し、沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けた政策研究のテーマ検討に資する基礎データとすることを目的とし、下記2点を実施する

① 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析

沖縄のこどもの幸福度等に関する主観的要素*1を調査する。

こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」等の既存調査と共通の調査設問を用いることで、全国と比較した沖縄の特徴を分析する。

② 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析

文献調査等の結果を参考に、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素*2と主観的要素の関係を分析することで、沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けた政策課題・視点を得る。

*1 「主観的要素」の定義：心や精神の状態（幸福度、満足度、孤独感、価値観 等）に関わる要素

*2 「客観的要素」の定義：属性（性別・年齢、経済状況 等）、学力、周辺環境（住居、公共施設 等）、行動（勉強や運動等の実施状態、生活時間 等）に関わる要素

2. アンケート調査の設計・設問概要

- アンケートは、沖縄県在住のこどもを対象に行い、今の幸福感や自己肯定感等の主観的要素や、生活時間や学習環境等の客観的要素について問う設問とする。

➤ 標本設計及び実施方法の概要

母集団	沖縄県内に在住する10～17歳(令和7年4月1日時点)のこども
調査母集団	住民基本台帳から抽出
抽出数	5,000
抽出方法	層化二段無作為抽出法
地区区分	6地域(那覇市、北部、中部、南部、宮古、八重山)
標本割付	原則、人口比例配分 ※宮古・八重山エリアは地域の2倍標本割付
調査方法	郵送配布、郵送回収またはWEB回収
調査票種類	年齢区分に応じて2種類(10～14歳はふりがな付)、調査は無記名(個人特定なし)で実施
設問数	20～30問程度
目標回収数	1000s以上(20%以上を目標とする)
調査期間	3～4週間程度(9月下旬～10月中旬予定)

➤ 設問の概要(資料6-2 参照)

大項目	主観/客観	内容概要
属性	客観	性別、年齢、同居者、在学状況、居住地
今の幸福感・孤独感	主観	幸福感、生活満足度、孤独感
自己認識・自己肯定感	主観	自分が好き、愛されている、人生を楽しんでいる、必要とされている、夢中になれる、夢・目標がある、親が良いところをほめてくれる
家族の幸福感	主観	自分の親が幸せだと思うか
居場所	主観	安心できる場所(家庭、学校、地域、ネット空間)
関わり	主観	家族・親戚、友人、地域の人(相談できる、助けてくれる、本音を話せる)、相談相手なしの理由
生活時間	客観	学校以外勉強時間、動画視聴、SNS、家族の世話、家事 等
学習環境	客観/主観	学校以外の勉強場所、理解度、つまづきの時期
進路	主観	働く時期、将来の障害
所有物	客観	自分の部屋、インターネット環境、スマートフォン、学習塾、家族旅行 等
Uターン	主観	将来、進学や就職のために沖縄県から出ていこうと思うか・戻ってこようと思うか
親からの影響	主観	親からしてもらって嬉しかった・楽しかったこと

3. 設問の設計(1/2)

①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析

- 基本的に、全国やその他の地域の数値とも比較できるように、公的機関による類似の既存調査と共通の設問を採用する。また、仮説検証や分析、将来的に目標設定等への活用を念頭に、文献調査やヒアリングの結果を踏まえた独自の設問を作成し、追加する。

➤ 公的機関による類似の既存調査

- こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」の一部設問
 - 採用する設問：今の幸福度※、自己認識、居場所、孤独感、他者との関わり方、将来への希望、相談相手・支援 等
- 東京都「とうきょうこどもアンケート」の一部設問
 - 採用する設問：進路・将来像、今の幸福感※ 等

※こども家庭庁の調査における4段階で主観的要素を回答する設問は、本調査でも既存調査との比較のため踏襲する。
加えて、今後の分析・検討のため、同じ趣旨の設問であっても、国際的により標準的な11段階で主観的要素を回答する設問も採用する（東京都の調査も11段階を採用）

➤ 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題を踏まえた独自の設問

- 採用する設問：親の幸福度、他人からの評価 等

3. 設問の設計(2/2)

②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析

- 文献調査やヒアリングの結果を踏まえ、関連する客観的要素の設問を、公的機関による類似の既存調査から採用する。また、既存調査に無い設問については、独自の設問を作成し、追加する。

➤ 公的機関による類似の既存調査

- こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」の一部設問
 - 採用する設問：属性、家での過ごし方 等
- 東京都「とうきょうこどもアンケート」の一部設問
 - 採用する設問：情報端末の利用時間、希望する進路までの障害、所有物※ 等
- 沖縄県「沖縄こども調査」の一部設問
 - 勉強場所、学習のつまづき 等

※本調査では保護者は調査対象外であり、保護者の所得といった経済状況（つまり、こどもの経済状況）を把握することができない。それを代替するものとして、こどもに所有物を問うことで間接的に経済状況を把握する

➤ 沖縄のこどもを取り巻く現状・課題を踏まえた独自の設問

- 採用する設問：生活時間・SNS利用時間 等

3. 設問の設計(参考)

こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」(令和4年度)概要

- こども・若者を取り巻く現状及び課題を的確に把握し、国及び地方公共団体におけるこども・若者育成支援施策や家庭・学校・地域・職域等におけるこども・若者育成支援の改善・充実に資する基礎資料を得ることを目的とする。
- 標本設計及び実施方法の概要

調査対象者	①10～39歳の男女 20,000人 (うち10～14 歳2,813人、15～39 歳17,187人) ②40歳～69歳の男女 10,000人 ※令和4年4月1日時点
抽出方法	層化二段無作為抽出法 ①層化:全国の市町村を都道府県を単位として11地区、各地区は都市規模によって25分類、計65層 ②調査地点の配分:地区・都市規模別各層における母集団の大きさにより人口比例配分
調査方法	郵送法(オンライン回答併用)
調査票種類	3種類(10 歳～14 歳対象調査、15 歳～39 歳対象調査、40 歳～69 歳対象調査)
設問数	20～30問程度
有効回収数	10～39歳:8,555人、40～69歳:5,214人 (うち10～14歳:1,520人、15～39歳:7,035人)
調査期間	令和4年11月10日～25日(30日事務局到着分まで)

➤ 設問の具体例

大項目	具体例 ※①10-14歳対象調査、②15-39歳対象調査
幸福感・自己肯定感	・今の自分が好きだ(①、②) ・うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(①、②) ・あなたは、今、自分が幸せだと思いますか(①、②)
孤独感	・あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか(①、②)
他者との関わり方	・家族・親戚と会話やメール等をよくしている(①、②) ・家族・親戚に何でも悩みを相談できる人がいる(①、②)
社会参加	・社会のために役立つことをしたいと思いますか(①、②)
将来像	・自分の将来について明るい希望を持っていますか(①、②) ・あなたは20年後、どのようになっていると思いますか(②)
普段の活動	・普段自宅にいるときの活動[テレビを見る/介護・看護をする/インターネットをする 等](①、②)
外出状況	・普段、仕事や学校で平日は毎日外出する/自宅からほとんど出ない(①、②)
困難に直面した経験等	・ものがとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いますか、また、現在、ありますか(①) ・社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか(②)
相談・支援	・相談したり助けてもらったりしやすい人[家族や親せき/学校の友達/誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない](①、②) ・誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない理由(①、②)

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ